

# 農 研 速 報

2024年4月3日 発行  
 茨城県農業総合センター農業研究所水田利用研究室  
 〒301-0816 茨城県龍ヶ崎市大徳町 3974  
 TEL:0297-62-0206 FAX:0297-64-0667

麦の生育状況(3月28日現在、龍ヶ崎市)

地域名	麦種(品種)	生育ステージ	対平年遅速 (予測出穂期)	生育(作柄・品質)概況	備考
茨城県 (龍ヶ崎市)	11月9日播種 小麦 (さとのそら)	節間伸長期～ 止葉展開期	4日遅い	龍ヶ崎市における、3月第4半旬～第5半旬の気象と麦類生育概況は、下記のとおりである。  <b>【気象】</b> 気 温:平均気温は低かった(平年比-1.9℃、図1)。 降 水 量:平年比 19%と少なかった(図2)。 日照時間:平年比 101%と平年並であった(図3)。  <b>【生育】</b> 生育速度:大麦の出穂期は3～6日早かった(表1)。主稈幼穂長から予測した小麦の出穂期は、平年(実測値)より5日遅い(表2)。  草 丈:11月9日播種の小麦は短かった。六条大麦、二条大麦はやや短く、裸麦は平年並であった。11月21日播種の小麦は短かった。(表3)  茎 数:11月9日播種の小麦、カシマムギ、ミカモゴールドン、キラリモチは平年並であった。カシマゴールドンはやや少なかった。11月21日播種の小麦はやや多かった(表3)。  葉 色:11月9日播種の小麦、六条大麦、二条大麦、裸麦はかなり淡かった。11月21日播種の小麦はかなり淡かった(表3)。  写真1、2に3月28日現在の所内麦類の生育状況を示した。  <b>【注釈】</b> 1) 対平年遅速は、主稈幼穂長による予測出穂期と平年値の差を示す。	◆麦類赤かび病は、以下を参考に適期防除に努める。 <b>【防除適期】</b> ・小麦 開花始～開花期 (出穂後7～10日頃) ・六条大麦 開花を確認した時 (出穂後3日頃) ・二条大麦 穂から葯が抽出しているのを確認した時  ・「キラリモチ」は開花受粉性のため、六条大麦の散布時期である出穂後3日頃を目安に散布する。
	六条大麦 (カシマムギ)	出穂始～出穂期	3日早い		
	(カシマゴールド)	穂揃期	6日早い		
	二条大麦 (ミカモゴールドン)	穂揃期	5日早い		
	裸麦 (キラリモチ)	出穂期～穂揃期	5日早い		
	11月21日播種 小麦 (さとのそら)	節間伸長期	4日遅い		

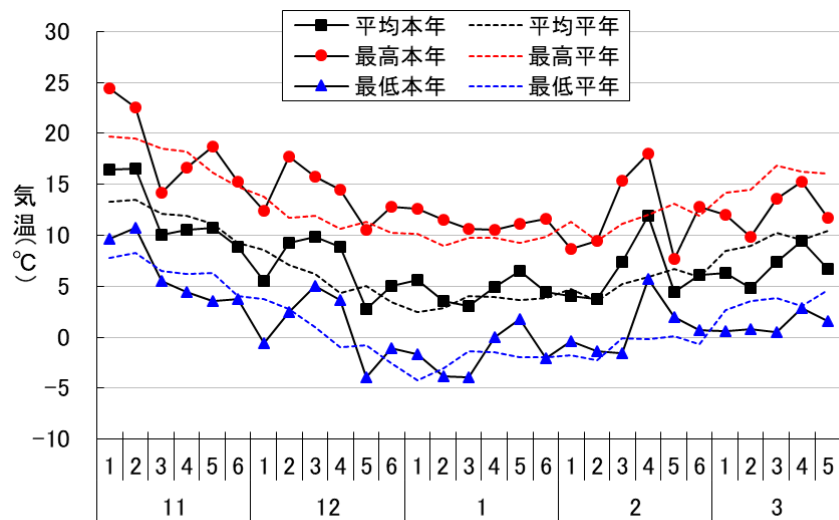


図1 半旬別最高・最低・平均気温の推移 (月・半旬)  
 注) 水戸地方気象台龍ヶ崎観測所アメダスデータより作成

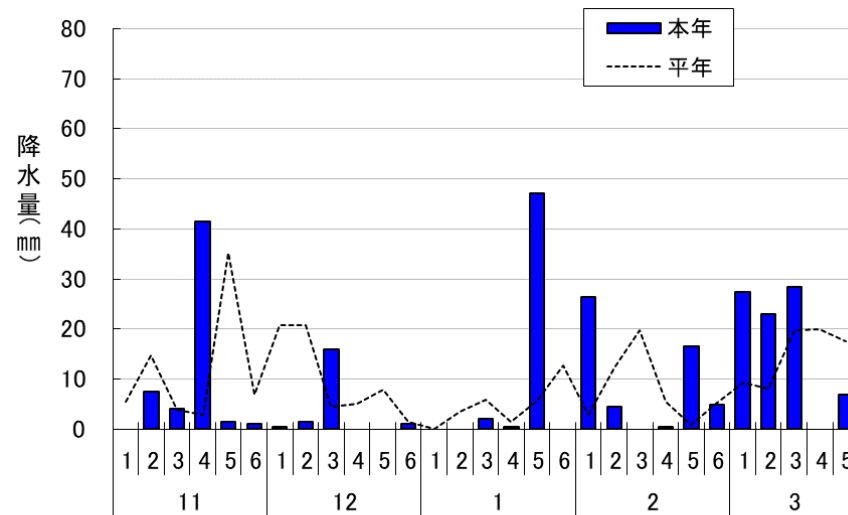


図2 半旬別降水量の推移 (月・半旬)  
 注) 水戸地方気象台龍ヶ崎観測所アメダスデータより作成

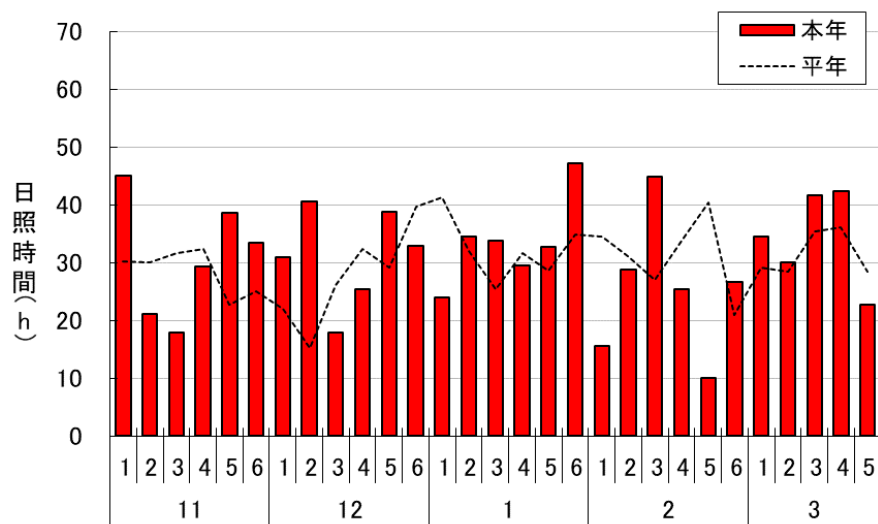


図3 半旬別日照時間の推移 (月・半旬)  
 注) 水戸地方気象台龍ヶ崎観測所アメダスデータより作成

表1 輪換畑における大麦の出穂期(龍ヶ崎市, 水田利用研究室)

播種期	麦種	品種名	出穂期			
			本年値 (月.日)	前年値 (月.日)	平年値 (月.日)	
11.9	六条大麦	カシマムギ	-	4.2	4.2	※3/28時点3割出穂
		カシマゴール	3.25	3.31	3.31	
	二条大麦	3.25	3.30	3.30		
	裸麦	3.27	3.30	4.1		

【耕種概要】

- 1) 圃場来歴：転換1年目(前作水稻)
- 2) 播種期：平年の播種期は11月10日、21日
- 3) 播種量：(小麦・六条) 0.8kg/a、(二条) 1.0kg/a
- 4) 播種様式：条間30cm、ドリル播き(シーダーテープによる)
- 5) 基肥：(小麦)  $N-P_2O_5-K_2O=1.0-1.5-1.3$ kg/a、(六条・二条)  $N-P_2O_5-K_2O=0.8-1.2-1.1$ kg/a
- 6) 麦踏み：2023年12月27日、2024年1月9日、1月31日、2月15日(小麦のみ)に実施。
- 7) 茎立期追肥：茎立期追肥：六条大麦・裸麦は2024年2月15日、小麦は2月29日施用。二条大麦は未施用。

【平年値】

2018年～2022年播種の5ヵ年の平均値、キラリモチは2019年～2022年播種の4ヵ年の平均値

表2 主稈幼穂長から予測した小麦「さとのそら」の出穂期

播種期 (月.日)	予測出穂期					出穂期(幼穂長からの計算値)		出穂期(実測値)	
	低温	やや低温	平年並	やや高温	高温	平年値	平年差	平年値	平年差
	(月.日)	(月.日)	(月.日)	(月.日)	(月.日)	(月.日)		(月.日)	
11.9	4.16	4.14	4.13	4.12	4.11	4.8	5	4.9	4
11.21	4.19	4.17	4.16	4.14	4.13	4.11	5	4.12	4

【注釈】

- 1) 低温・やや低温・平年並・やや高温・高温は、調査日以降の平均気温が平年値より $-2^{\circ}C$ 、 $-1^{\circ}C$ 、 $\pm 0^{\circ}C$ 、 $+1^{\circ}C$ 、 $+2^{\circ}C$ で推移した場合を示す。
- 2) 平年値は表1に準じる。平年差は、調査日以降の平均気温が平年並に推移した場合における予測値と平年値の差を示す。
- 3) 出穂期の平年差は、主稈幼穂長から算出した予測出穂期と平年値の差を示す。
- 4) 出穂期の予測は、農業研究所ホームページ(下記URL)から表計算ソフトのファイルで行った。

<http://www.pref.ibaraki.jp/nourinsuisan/noken/mugikukidachisyussuiyosoku/mugikukidachisyussuiyosoku.html>

表3 輪換畑における麦類の生育（龍ヶ崎市、水田利用研究室）

2024年3月28日現在

播種期 (月.日)	麦種	品種名	主稈葉数			主稈長			主稈幼穂長		
			本年値 (枚)	平年値 (枚)	平年差 (枚)	本年値 (mm)	平年値 (mm)	平年比 (%)	本年値 (mm)	平年値 (mm)	平年比 (%)
11.9	小麦	さとのそら	12.5	12.2	0.3	177.4	241.9	73	23.6	43.5	54
	六条大麦	カシマムギ	12.1	12.0	0.1	265.7	412.4	64	35.9	35.9	100
		カシマゴール	11.9	12.7	-0.8	464.3	520.8	89	36.7	39.9	92
	二条大麦	ミカモゴールデン	11.9	11.5	0.4	480.5	574.5	84	43.7	50.2	87
	裸麦	キラリモチ	12.5	12.1	0.4	345.2	419.0	82	60.7	60.0	101
11.21	小麦	さとのそら	11.0	10.7	0.3	140.9	187.6	75	16.9	30.7	55

播種期 (月.日)	麦種	品種名	草丈			茎数			葉色		
			本年値 (cm)	平年値 (cm)	平年比 (%)	本年値 (本/m <sup>2</sup> )	平年値 (本/m <sup>2</sup> )	平年比 (%)	本年値 (SPAD)	平年値 (SPAD)	平年差
11.9	小麦	さとのそら	45.2	54.5	83	1,143	1,312	87	36.8	44.2	-7.4
	六条大麦	カシマムギ	49.9	55.7	90	803	883	91	44.4	48.5	-4.1
		カシマゴール	57.0	62.9	91	610	877	70	38.4	42.4	-4.0
	二条大麦	ミカモゴールデン	60.4	66.9	90	957	1,093	88	30.9	37.5	-6.6
	裸麦	キラリモチ	53.5	56.9	94	1,023	1,078	95	39.7	44.5	-4.8
11.21	小麦	さとのそら	43.2	49.6	87	1,507	1,315	115	40.4	45.1	-4.7

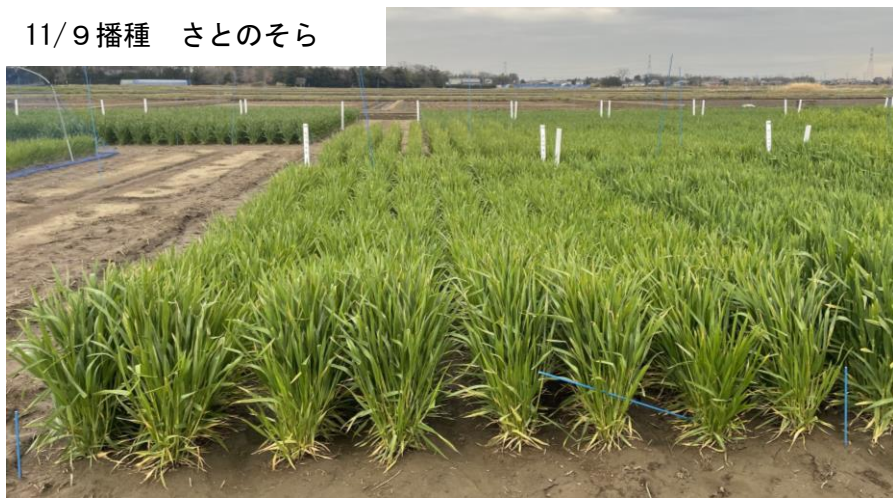
## 【耕種概要】

- 圃場来歴：転換1年目（前作水稲）
- 播種期：平年の播種期は11月10日、21日
- 播種量：（小麦・六条）0.8kg/a、（二条）1.0kg/a
- 播種様式：条間30cm、ドリル播き（シーダーテープによる）
- 基肥：（小麦）N-P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>-K<sub>2</sub>O=1.0-1.5-1.3kg/a、（六条・二条）N-P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>-K<sub>2</sub>O=0.8-1.2-1.1kg/a
- 麦踏み：2023年12月27日、2024年1月9日、1月31日、2月15日（小麦のみ）に実施。
- 茎立期追肥：茎立期追肥：六条大麦・裸麦は2024年2月15日、小麦は2月29日施用。二条大麦は未施用。

## 【平年値】

2018年～2022年播種の5ヵ年の平均値、キラリモチは2019年～2022年播種の4ヵ年の平均値

11/9 播種 さとのそら



11/21 播種 さとのそら



写真1 所内小麦の生育状況(左 11月9日播種、右 11月21日播種 2024年3月28日撮影)

カシマムギ



カシマゴール



ミカモゴールド



キラリモチ



写真2 所内大麦の生育状況(左上 カシマムギ、右上 カシマゴール、左下 ミカモゴールド 右下 キラリモチ 全て11月9日播種 2024年3月28日撮影)

## 気象概況および生育状況における表現について

平年値(過去5年間の平均値)との違いの程度を、「低い(少ない)」、「平年並」、「高い(多い)」等の階級区分で表しています。  
各階級の幅は、下図のように、統計期間における出現率が等分(それぞれ33%)となるように決めています。  
さらに、「低い(少ない)」、「高い(多い)」については、補足的表現として下図に示す出現率となるように「やや」、「かなり」と表しています。

